

えん + じん

発行:
多賀城市市民活動サポートセンター
(たがさぼ)

第5号 【毎月1日発行】
発行日:平成24年2月1日

えんじんは、被災地で生活している方、復興支援活動をしている方を応援する情報誌です。

えん+じん2月号 目次

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 ページ…NPO相談窓口 | 震災によって困りごとを抱える方の相談窓口です |
| 2 ページ…障がい者の視点で支援を届ける | 障がいがある方の支援を行っている団体です |
| 3 ページ…障がいがある方の相談窓口 | 障がいがある方が相談や情報交換を行う場です |
| 4 ページ…町内会活動紹介 | 町内会の震災後の活動事例です |
| …身近な支援情報をお届けします | 各仮設住宅に設置してあるチラシラックを紹介し |
| …第3回NPOいちから塾 | 復興活動のきっかけとなる講座のお知らせです |



NPO相談窓口

被災者の困りごとや悩みごとに対応する相談窓口を紹介します。

●ふんばろう東日本支援プロジェクト●

物資を必要としている被災者と物資を提供したい支援者を結ぶウェブサイトで。電話での依頼も可能です。

対象: 支援物資を必要とする被災された方

団体: ふんばろう東日本支援プロジェクト

電話: 0570-06-4439

時間: 午前9時～午後9時

H P: <http://fumbaro.org/>

●生活再建「無料電話相談」●

被災された方々の生活再建等に関する質問に、資産設計の専門家が電話でお答えします。

対象: 経済的な生活再建を望む被災者の方

団体: NPO法人日本FP(ファイナンシャル・プランナー)協会

電話: 0120-874-002(通話料無料)

時間: 午前10時～午後4時(3月31日まで)

H P: <http://www.jafp.or.jp/>

●犯罪や事故被害者の相談電話●

犯罪や事故の被害に遭い、精神的にダメージを受けた本人やご家族を支援することを目的に、専門の研修を受けた相談員が被害者の相談に応じます。

対象: 犯罪・事故の被害を受けた方、そのご家族

団体: 公益社団法人みやぎ被害者支援センター

電話: 022-301-7830(宮城)

時間: 午前10時～午後4時(火～金曜)

H P: <http://www1a.biglobe.ne.jp/zzm66262/>

●東日本大震災 心の相談電話●

東日本大震災により悩みや問題を抱えた被災者の方や支援活動に関わる方の精神的なサポートを行います。

対象: 不安や悩みを抱えている被災者及び支援者

団体: 東日本大震災心理支援センター

電話: 0120-719-789(通話料無料)

時間: 午後7時～午後9時(月・火・木・金曜)

H P: <http://www.jpssc.biz/>

●子育て相談電話●

子育て中の方、子育てのパートナーを失った方、親の代わりに務めることになった方へ向けて、子育ての電話相談を行っています。

対象: 子育てでお悩みの方

団体: 子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ

電話: 022-265-8866(宮城)

時間: 午前10時～午後4時(月～土曜)

H P: <http://www.aa.alpha-net.ne.jp/capnet/>

●エイズ電話相談●

HIV/エイズに関する相談や疑問に、研修を受けたボランティアスタッフが対応します。

対象: HIV/エイズでお悩みの方

団体: 東北HIVコミュニケーションズ

電話: 022-276-1960(宮城)

時間: 午後6時～午後9時(土曜 お盆期間は休み)

H P: <http://www16.plala.or.jp/thc/>

「たがさぼ」では、東日本大震災によって被災された方に対して、被災者支援活動の情報を提供しています。また、ボランティア活動を始めたい方からの相談や、すでに地域づくりに取り組んでいる団体のみなさんからの相談に応じています。来館はもちろん、お電話でも受け付けております。ぜひ「たがさぼ」までご相談ください。

被災者支援活動紹介

障がい者の視点で支援を届ける

被災地障がい者センターみやぎ

被災地障がい者センターみやぎは、被災した障がい者の支援を目的に平成23年3月31日に設立されました。

構成団体は、宮城県内の14の障がい者団体。また「東北関東大震災障害者救援本部」と阪神淡路大震災を教訓に生まれた「NPO法人ゆめ風基金」の協力を受けて活動しています。

脳性まひで電動車いすを利用している代表の及川智さんは、活動場所であるC I Lたすけっと(自立生活センター)の事務所で被災しました。震災直後に地域の避難所に避難したものの、あふれかえる人ごみで身動きが取れず、また、車いすで使えるトイレがないことから事務所で避難生活を送りました。

この自らの経験から「同じように困っている障がい者は必ずいるはずだ」と障がい者の視点から支援開始に踏み切ったのです。

●調査からみえた障がい者の被災状況

同団体は、震災直後から多賀城市も含め県内の全避難所、仮設住宅の聞き取り調査及び物資、人的支援を行いました。避難所はトイレ等がバリアフリーでないことをはじめ、障がい者への配慮が充分でないため、障がい者特有のニーズに応えたいとオムツや医療品などの依頼を受け、提供していました。

その後は、避難所や仮設住宅で使うポータブルトイレや簡易ベッド、入浴用チェア、トイレ改装やスロープ、手すりの設置などの生活環境に必要な依頼が増えました。物流や生活環境が整った後は、入浴介助や学童保育、外出支援や送迎支援、生活相談などといった“生活の立て直しに向けたニーズ”が増えています。支援件数は半年間で、施設・団体は41ヶ所、個人は389人に上ります。

しかしながら、避難所には障がい者が少ないこともあり、生活しにくい環境であることが浮き彫りになりました。結果として福祉施設が障がい者の福祉避難所になった事例も多くあります。

仮設住宅も障がい者への配慮は充分でなく、入口が狭かったり部屋の中に段差があったりと、生活がしにくい状況でした。民間借上げ住宅に避難した障がい者が圧倒的に多いことが予想されますが、民間借上げ住宅は入居場所などが把握しにくいいため、聞き取り調査や支援がしにくいのが現状です。

●障がいがあっても自分らしく暮らせる復興を目指す

都市部から遠いほど、障がい者が地域で生活するための支援や地域資源が充分でないため、障がい者が地域で生活することが困難であるという課題があります。これらは震災前からあった課題であり、震災によって見えてきたものです。

今後、被災地障がい者センターみやぎは、障がいをもつ当事者の立場から、多くの当事者とつながり「障が



被災地障がい者センターみやぎ 代表及川さん(写真左)

いがあっても自分らしく暮らせるまちづくり」を目指して活動します。また、これまでの調査や支援活動をもとに、震災時の障がい者支援体制整備の要望を行政へ提言していく方針です。「障がい者が暮らしやすい地域をつくっていくことは、高齢者や子どもなど“誰もが暮らしやすく災害にも強い地域づくりにつながる」と、及川さんは話します。

被災地障がい者センターみやぎでは、障がいをもっても安心して暮らせる「まち」をつくるために、障がい者やその家族からの相談を受けるとともに、共に活動する障がい当事者や支援者などの仲間を募集しています。生活相談や一緒に活動したいという方は下記の連絡先にご連絡下さい。

団体名：被災地障がい者センターみやぎ
 住所：宮城県仙台市太白区長町1丁目6-1
 C I Lたすけっと内
 電話：022-746-8012
 FAX：022-248-6016
 時間：午前10時～午後6時
 土・日・祝日は定休日
 E-mail：cil.busshi@gmail.com
 ブログ：http://blog.canpan.info/tasuketto/

被災者支援活動紹介

障がいがある方の相談窓口

多賀城市精神障がい者家族会さざんか会
みやぎ発達障害サポートネット

障がい者やその家族が、困りごとを自分一人で悩まず、同じ悩みを持った方や専門家とつながるための窓口を紹介します。紹介する団体は、震災前から障がい者やその家族の相談や交流の場をつくっていました。震災後も、普段の活動を活かし、被災した障がい者が孤立することを防ぐための活動を継続して行っています。

多賀城市精神障がい者家族会さざんか会

年に6～7回開催されるおしゃべりサロン。精神障がい者をもつ家族が集まり、悩みを話したり、病院や薬の情報を交換したり、ときには愚痴も話します。同じ悩みをもつ人同士が話し合うことで、一人で悩みを抱えずに済み、励まされ、支え合う場になっています。

多賀城市精神障がい者家族会さざんか会(以下、さざんか会)は、精神衛生センター、塩釜保健所の協力のもと、多賀城市の精神障がい者をもつ家族と支援している保健師によって設立された団体です。メンバーの中には被災した方もいましたが、「こんなときだからこそいつもの活動をしよう」と、震災後も震災前と変わらない活動を続けてきました。

多賀城には、精神障がい者が気軽に立ち寄り、悩み

や想いを話せる場所は少なく、また、病院や施設でも上手く人と接することができない方の行き場がない現状があります。震災によってさらに困難な状況に置かれる中、誤解や偏見から、障がいのことを誰にも伝えられずに、本人と家族の中だけで悩みを抱え込んでしまい孤立している人たちもいます。

さざんか会では、障がい者やその家族の方が気軽に話し合えるおしゃべりサロンを通して、つながることで病気や障がいをもっていても暮らしやすい地域をつくっていくことを目指しています。震災によってさらに困難な状況に置かれた人がいる今だからこそ、同じ悩みを抱えている人に対して「ひとりじゃない」というメッセージを伝え続けています。

団体名：多賀城市精神障がい者家族会さざんか会
電話：022-366-0539(松崎)

みやぎ発達障害サポートネット

みやぎ発達障害サポートネットは、発達障がいがある方やその家族の方の「地域で安心した楽しい生活」を実現させるために設立されました。震災前から、相談や情報交換、自立に向けた学習支援や就労トレーニング等の支援活動に取り組んでいます。

発達障がいがある方は、日常生活の変化に対応することが苦手な場合が多く、今回の震災においても不安を抱えた日々を過ごしています。また、家族の方も、どこに相談したらよいか分からない、震災の影響で今まで相談していた支援施設や医師と連絡がつかない、といった問題も発生しています。このような困りごとを相談できる場として、みやぎ発達障害サポートネットでは、相談事業やサロン事業を実施しています。相談事業では、発達障がいについての相談や情報提供、

サロン事業では、1人で悩みを抱え込まないよう、同じ悩みを持った方同士が集まり、話し合いや情報交換会を行っています。大変なときだからこそ、自分の力だけではなく、誰かとつながることが必要となります。相談や話し合いを通し、仲間と出会い、支え合う場所をお探しの方は、ぜひお問い合わせください。

発達障がいのある方、家族の方、学校・保育園の先生・医師・福祉の専門家等が協力し、支援を行っています。居住地や年齢関係なく、電話・来訪での相談に応じています。

団体名：認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット
住所：仙台市青葉区花京院1丁目4-1
電話：022-265-5581
FAX：022-352-7088
E-mail：mddsnet@yahoo.co.jp
ブログ：<http://blog.canpan.info/mddsnet/>

取材を終えて 被災者目線で進める復興

生活環境のバリアフリー化が進んでいないことや障がい者への理解不足、誰に相談したらよいか分からない、といった問題は、震災によって新たに生じた問題ではなく、震災前から抱えていたものが震災をきっかけに浮き彫りになってきたものです。特に被災された方は、避難所や仮設住宅等の生活の大きな変化に直面しています。また、行政による公的なサービスだけでは対応出来ないケースも見えてきています。

障がい者やその家族の方は、被災によって慣れない

生活環境に置かれ、まわりに相談しにくい状況にあります。誰かが困ったときはお互いが支え合って問題を解決する、障がい者を地域で孤立させない、ということが被災者支援や震災復興において必要な視点となります。復興を進める中で、障がい者の視点を持つ団体が活動することによって、誰もが暮らしやすい地域づくりが目指せるのです。

もし、身のまわりでそういった方がいた際は、今回ご紹介した団体を教えてあげてください。また、「たがさぼ」にはその他にも同じように障がい者の支援を行っている団体の情報があります。何か困りごとがあった際には、ぜひ「たがさぼ」へご連絡ください。

町内会活動紹介

普段からの情報収集・交換が役立った

—住民の力で支えた避難所「八幡公民館」—

JR多賀城駅の南側に位置する八幡地区はほぼ全域が津波によって浸水しました。地区の拠点として利用されていた八幡公民館には、地区住民はもちろんですが、地区内を走る国道45号線や産業道路を通過していた運送業者のドライバーなど地区外の方も避難してきました。その数は200人を超えます。

津波の被害に遭い、濡れたままの人のために近所の人たちに毛布や衣類の提供をお願いし、暖をとっていたそうです。地区内のお寺からは玄米の提供があり、調理するために必要な精米機、停電の中で精米機を動かすための発電機、さらに発電機を動かす燃料を持っている人を探し出しました。水や食料はそれぞれの自宅にあるものを持ち寄り、婦人防火クラブのメンバーによって無事炊き出しを行うことができました。

このように公的な支援が届くまでの間、住民の協力によって、八幡公民館は避難所として機能することができました。「地区のみなさんに支えられて公民館は避

難所として力を発揮した」と八幡下一区区長の津田さんは振り返ります。八幡下一区では、週に一度は必ず区長と民生委員とで情報交換の時間をとっているそうです。普段から情報を収集し、地区や住民の状況を把握していたことが災害時の協力につながったのです。また、日常的な情報交換が、災害時の混乱する中での情報の収集・伝達をスムーズにしました。

避難所閉鎖までの間、八幡地区を構成する5つの行政区長が毎日集まり、避難所運営に必要なことを話し合ったり、各地区の状況を把握したり、市役所からの情報を共有する時間を作っていたそうです。5つの区で協力し合えたこともまた大きな力となりました。

今後は、普段からの情報収集・交換を大切にしながら、今回の経験を活かし、災害時の拠点となる公民館の備蓄の見直しと、これまで想定していなかった地区の人以外の避難者の受入についても検討し、災害時の備えを強化していきたいと考えているそうです。

たがさぼ事業紹介

身近な支援情報をお届けします

NPOやNGOなど民間の情報によりアクセスしやすい環境を整えるため、平成23年12月、多賀城市内6ヶ所にある仮設住宅集会所にチラシラックを設置しました。ポケット20個のチラシラックの中には、仮設住宅にお住まいの方に役立つ支援情報を配架しています。例えば、障がいをお持ちの方への物資や介助支援の情報、こころの悩みを抱えた方の電話相談窓口情報、アルコールに関する相談窓口情報、学習環境の整わない子どもへの支援情報などです。

チラシはどなたでも自由に持ち帰ることができます。お困りの方本人だけではなく、ご家族の方でも役立つ情報であればぜひ持ち帰りください。今後も、関係機関の協力を得ながら、さまざまなニーズに対応し、必要な情報を提供します。まずは、気軽に集会所に足を運び、チラシを手にとってみてください。

チラシラックについて不明な点、お気づきの点があれば、たがさぼまでご連絡ください。



国府多賀城駅南地区仮設住宅のチラシラック

第3回NPOいちから塾 受講者募集

日時／平成24年2月9日(木)

午後7時～午後8時30分

会場／多賀城市市民活動サポートセンター
(多賀城市二丁目25-3)

費用／500円(資料代)

定員／15名(先着順)

申込／多賀城市市民活動サポートセンター窓口
または電話にてお申しください。

問合せ／多賀城市市民活動サポートセンター

TEL 022-368-7745

■講座内容■

- 被災者復興支援活動をしているNPO紹介
- NPOの意味や仕組み、特徴について
- 一歩ふみ出すワークショップ
- たがさぼ館内案内

□発行：多賀城市市民活動サポートセンター
〒985-0873 多賀城市中央二丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣、上水道部向かい)
TEL:022-368-7745 FAX:022-309-3706
ホームページ：<http://www.tagasapo.org/>
スタッフブログ：<http://blog.canpan.info/tagasapo/>
Twitter URL：<http://twitter.com/#!/tagasapo>
アカウント：@tagasapo
□編集：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター